



このみ

学校法人
木の実幼稚園

松山市西垣生町 1690
TEL 089-973-1256
FAX 089-973-1320

●発行人●
PTA 会長
原田 寿美
園 長
中矢コノミ
PTA 編集部
木村 希孔
柏木 久子
沖本 真美子



『恵まれない、という恵み』

理事長 中矢謙一郎

卒園児の保護者でもある私の知人のご子息が、アイスホッケーの特待生として北海道の高校へ進学しています。

北米における四大スポーツの一つであるアイスホッケーも、ここ日本ではマイナースポーツとして扱われることが多く、とりわけ雪が少なく温暖な西日本ではアイスホッケーをしている子どもに出会うことはあまり多くありません。また、年間を通して練習できるリンクもあまり多くはありません。つまり、練習環境やコーチ・仲間恵まれる機会が、他の競技と比べて圧倒的に少なく、競技を続けること自体に困難があります。そのような中、彼は出場した大会で認められ、中学卒業と同時に本場北海道へと旅立っていきました。そんな彼も二年生に進級し、全国から集まる実力者たちとの競争の中で試合に出場できない日々を送っているそうです。

彼の父、つまり私の知人が試合観戦のために北海道を訪れた際、チームの他の保護者から「〇〇君のお父さんですか」とたくさん声をかけてもらったり握手を求められたりして、彼のことをとても褒めてくれたそうです。

その話を聞いてすぐ、試合に出られなくとも彼がチームのために尽くしてきたこと、そして、彼がチームの一員として周りから認められていたことを、容易に想像できました。

そんな彼に、新しい目標ができたことです。大学へ進学し、いずれ愛媛に戻り指導者になるという目標が。また高校生ですので、その目標は将来違う形になるのかもしれませんが。しかし、その目標が叶うとき、現在進行中の彼の人生経験は、指導者としての基礎や器、引き出しとなり、彼をより良き指導者に引き上げてくれることでしょう。何故なら、どんなに努力を重ねても試合に出られない時期があるということ、選手がその時期をどのような気持ちで過ごすか、その状況に腐ることなく光を探しあててひたむきな向上心というものを、彼は実感をもって子どもたちに語りかけることができることでしょう。

彼という人間がスポーツ留学で得た最大の栄養は、「試合に出場する機会に恵まれなかった」という恵まれた人生経験なのかもしれません。



『時を経て・・・』

園長 中矢コノミ

お休みの日、ふっと思いついて何年も前の手帳を手にしパラパラとめくっていました。そして、その折々の思い出にふける自分がいきました。

手帳には、ふと気がついたことや心に留めておきたいことが手帳に走り書きで、時に殴り書きで、時に丁寧に書かれていました。それは、どれを取っても時代に関係なく大切な言葉ばかりです。沢山の中から心を込めていくつかを書き出してみました。

- ・ 自分で考え、行動した時、自尊感情や自己肯定感が生まれます
- ・ 「なるほど」「そうね」で始まる会話
- ・ 「でも」「や」「だって」で途切れる会話
- ・ 人を見る目の優しさ、出て来る言葉の温かさ、周りを和ませる笑顔の柔らかさ
- ・ 教育は人が人をつくること
- ・ 教育は人が人をつくること
- ・ 人が物をつくることにあらず。よって「教育は人なり」
- ・ 科学する心を育てる
- ・ 幼児期と言う豊かな感性が育まれる時期に子ども達が身近な自然や人、もの、出来ごとの様々な関わりを通して遊ぶ楽しさ、学ぶ楽しさを味わい子ども達の豊かな感性や創造性を育む教育をめざして
- ・ 「幼児教育」とは自分探しの旅を助ける営み
- ・ 子どもが自分で考え、工夫し判断して自ら行動できる子にすること(成長する力は子ども自身の中にある)
- ・ 子どもが知的にも、社会的にも自律できるようにすること
- ・ 幼児期に自己肯定感や非認知能力を育てることこそ重要である
- ・ 人生で初めての体験や集団行動を始める幼児期、その成長を喜び見守ることのできる家庭教育の大切さ。等々。

何十年経っても幼児教育の確信は変わりません。私の手帳の四十年余りも何ら変わっていないように思えます。信じましょう我が子を。見つめましょう必ずある我が子の良さを。そして育児の原点は我が子に愛を伝えることだからが始まりであることを。



《年少 お月見会》



《年中 砥部焼見学》



《年長 谷上山登山》



第43回 秋季大運動会



《年長 リレー》

～令和の幕開け

あたらしいじだいにたねをまこう～



「運動会を終えて」

体育部部长 高岡ちひろ

令和元年の記念すべきこの年に、絶好の秋空の下で、第四十三回木の実幼稚園の運動会が開催されました。この日のために子どもたちは、帝人グラウンドや幼稚園の園庭、ホールで何度も練習を積み重ねて晴れの舞台を迎えました。体育部も、子どもたちの頑張っている姿に背中を押されて、何度も話し合いやシミュレーションを繰り返し、作業計画を練ってきました。

当日は、夏を感じさせる暑さのなか、子どもたち一人一人が自分のできる限りの力を発揮して、ご家族の方々からも沢山の歓声や拍手が沸き起こり、運動会全体が一体感に包まれました。私も幸せな気持ちでいっぱいになりました。とても素敵な運動会でした。最後に運動会に携わって頂いたすべての皆様に深く感謝申し上げます。本当にありがとうございました。

《まつりだワッショイ》



《年長 組体操》



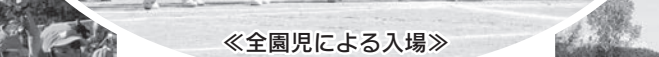
《鼓笛隊によるオープニング》



《のまけあたらしいじだいにたねをまこう》



《全園児による入場》



《年少 ワイワイうんどうかい》



《かけっこ！最後まで頑張りました》



《年中 花ひらけ！このみ学園天国》

11月6日

43回目のお誕生日

木の実幼稚園創立記念日

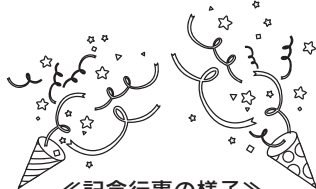
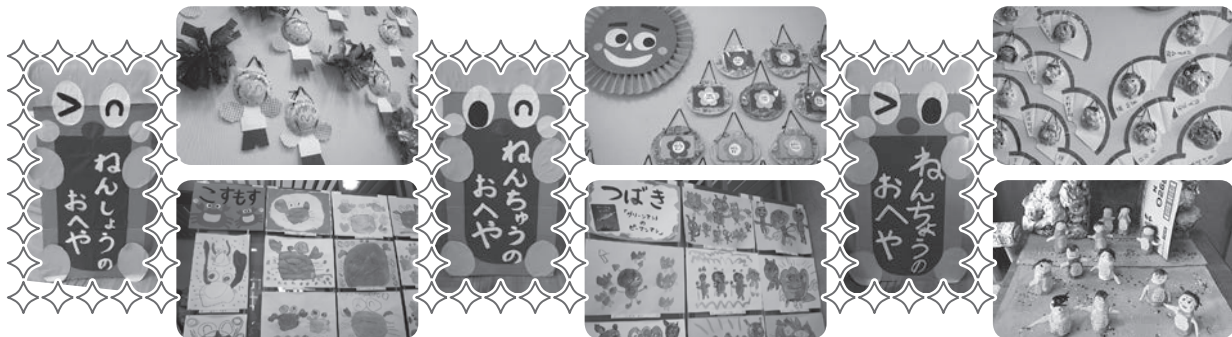
「創立記念日パレード」
終えて

文化部部长 赤瀬 千映子

晴天の中、今年のバザーも無事に開催する事ができました。保護者の皆様、先生方、五役さんを始めとするPTA各部署や補助役員の皆様には本当にお世話になりました。

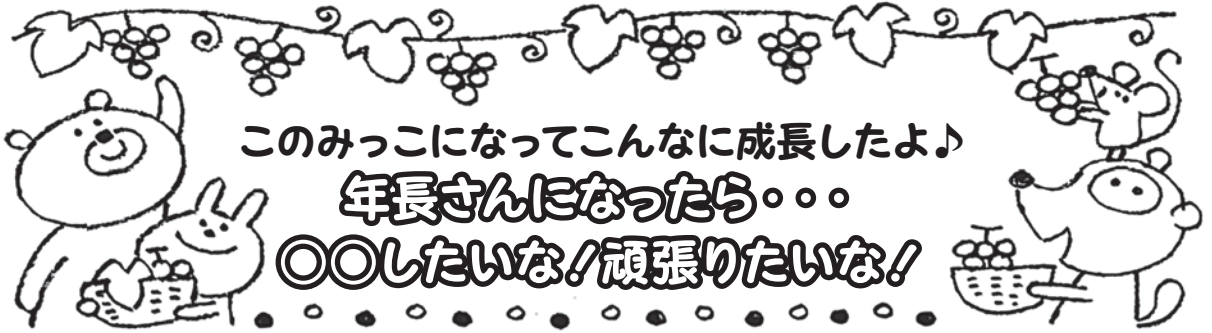
役員選出の日の事はあまり覚えてはいませんが、不安と共にスタートしたあの日から、何とか本番まで突っ走る事ができました。文化部に集まった十三名、皆の個性をそれぞれの持ち場で発揮する事ができたように思います。そんな私達をずっと温かくサポートして下さった前年度役員の皆様や部員の家族の皆様にも最大の感謝を。

また、五役さんの呼びかけによりお集まり頂いた、ボランティアの皆様のご協力も忘れてはいません。本当にたくさんの方々のご協力があったからこそ完遂する事ができたんだと実感しています。改めてお礼を申し上げると共に、最後に一言。イベント運営やモノ作りが好きな方は、来年は是非文化部へ！皆様本当にありがとうございました。



《記念行事の様子》





このみっこになってこんなに成長したよ♪

年長さんになったら。。。

○○したいな！頑張りたいな！

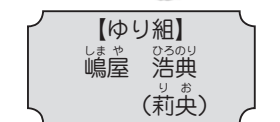


【ひまわり組】

まちだ ちあき
町田 ちあき
(岳)

このみっこになって一年半が過ぎ、生活の中でご飯の時、近所の人にごあいさつする時、いろいろな場面で幼稚園で教わったごあいさつやお歌がどんどん出てきて、かわいい姿にうれしい気持ちになっていきます。

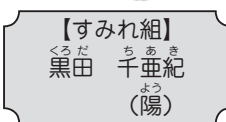
まだまだすぐ泣いちゃうけど、自分で「がんばれ、がんばれ兄ちゃんだ!!」と先生の合言葉？を唱えながらがんばる岳を、これからも応援するよ!!



【ゆり組】

しまや 浩典
嶋屋 浩典
(莉央)

たいたい！バスから降りると真っ先に一日の出来事を話してくれる莉央。楽しそうに話す姿から幼稚園、先生、お友達が大好き！が伝わり嬉しく思います。このみっこになってマランやプール、さまざまな体験を積み上げて頂きチャレンジ精神が育まれています。年長さんになったらもっと速く走れるようにしたい!!泳ぐの上手になりたい!!その気持ちを忘れず何事もチャレンジして欲しいです。そしてもっともっと大好きが増えますよ!!



【すみれ組】

くろだ きり
黒田 千亜紀
(陽)

年長さんになった日、兄が卒園し、妹の入園で一しっかりお兄ちゃんをしようとして決めていました。でも、いろいろな心配で涙が出る毎日でした。それでも自分が涙をこらえてでも妹を見てくれる、やさしいお兄ちゃんです。

年長さんになったら、「はいー」と進んで意見を言えるようになってほしいです。本当は何でも分かっている、覚えているよね。自分に自信が持てるように頑張りたいです。



【れんげ組】

かたふち のぞみ
片刈 望
はるか
(陽迦)

「あっーまたはるかがスネスネマンになった!」このみっこさんになる前から我が家がよく飛び交う言葉でした。年少さんになって、スネスネマンに変身する毎日。心配でしたが、先生達が会う度、園での様子を教えてください。今ではスネスネマンに変身する事も少なくなってきました。年長さんになったら、ニコニコマンになって運動を頑張りたいという。全力で走る姿を見たいなあ(笑)



【つばき組】

おくだ えみ
岡 笑
(たつき)

課外授業でサツカー、体操、絵画をします。年少の頃は体操教室が嫌で特に苦手な鉄棒の時は泣いたり、ゲームで負ける度に悔しくて泣いたりしていました。今は体操教室に行くのも楽しみに、苦手な鉄棒も前回りなどで楽しめるようになり、ゲームで負けてもみんなが笑めるようになり、年長さんになったら跳び箱を跳べるようになりたい、絵をもっと上手に描けるようになりたいという息子を見守っていききたいと思います。